

トヨタの1年

■中国の天津一汽トヨタエンジン、第2工場での生産を開始

■トヨタと富士重、富士重北米工場でのトヨタ車ラインオフ式を実施

トヨタと富士重工業(株)の長期的な相互の競争力強化と発展に向けた包括的な協業の枠組みに基づき、富士重の北米生産拠点であるSubaru of Indiana Automotive, Inc. (SIA)で、トヨタ車「カムリ」のラインオフ式を実施。北米向けの「カムリ」を、2007年より年間10万台の生産能力のもとで生産を開始した。



■ハイブリッド車の累計販売台数が100万台を突破

1997年に世界初の量産ハイブリッド乗用車「プリウス」を発売して以来、国内と海外を合わせたハイブリッド車の累計販売台数が2007年5月末までに約104万7千台となり、100万台を突破した。

今後もハイブリッドシステムの高い応用性を活かし、2010年代のできるだけ早い時期までに年間100万台販売の実現に向け、積極的な取り組みを展開していく。



■トヨタといすゞ、小型ディーゼルエンジンの開発および生産・供給に関する業務提携について基本合意

トヨタといすゞ自動車(株)は、小型ディーゼルエンジンの開発および生産・供給に関して業務提携を行うことで合意。両社が有する技術力およびノウハウを最大限に活用して、欧州市場向けトヨタ車への搭載を目的とした排気量1.6リットルクラスのアルミブロック製のエンジンについて、開発および生産に取り組んでいく。生産の開始時期は2012年頃を予定。

2007年

4月	5月	6月	7月	8月	9月
----	----	----	----	----	----

■生産(モノづくり)

■開発

■販売

■イベント等

■中国での砂漠化防止緑化プロジェクト、第3期目の調印式を実施

■中国の天津一汽トヨタ、第3工場で新型「カローラ」の生産を開始



■ブラジルでFFV*を販売

トヨタは、バイオエタノール燃料が広く普及し、FFVが市場の主流を占めてきているブラジルにおいて、バイオエタノール混合率100%燃料にも対応する「カローラFlex」および「カローラフィールダーFlex」を製造・販売子会社であるブラジルトヨタで製造し、販売を開始した。

*FFV: Flex Fuel Vehicle (ガソリンとエタノールなどを任意の比率で混合した燃料が使用可能な自動車)

■生産面での環境対応強化に向けて、「サステナブル・プラント」活動を開始

■プラグインハイブリッド車の国土交通大臣認定を取得

トヨタは、プラグインハイブリッド車「トヨタプラグインHV」を開発。プラグインハイブリッド車の公道走行を可能とする初めての大臣認定を国土交通省より取得した。



■燃料電池ハイブリッド車「トヨタFCHV*」で大阪-東京間約560kmを水素補充することなく完走

燃料電池ハイブリッド車「トヨタFCHV」の公道走行試験の一環として、大阪-東京間約560kmの長距離走行試験を実施。エアコンを稼働させたまま走行し、途中で燃料の水素を補充することなく完走した。

*FCHV: Fuel Cell Hybrid Vehicle

■「サステイナブル・モビリティ」の実現を目指し、新たなコンセプトを提示（東京モーターショー）

クルマのあり方を原点から見つめ直した環境コンセプトカーや、クルマづくりの既存概念を覆す超高効率パッケージカーなど、参考出品車を出展。



環境コンセプト「1/X(エックス分の1)」



心健やかコンセプト「RiN(リン)」

■「サステイナブル・プラント」活動の海外モデル工場を決定

米州のToyota Motor Manufacturing, Mississippi, Inc. (TMMMS)、欧州はイギリスのToyota Motor Manufacturing (UK) Ltd. (TMUK)とフランスのToyota Motor Manufacturing France S.A.S. (TMMF)、アジアはタイのToyota Motor Thailand Co., Ltd. (TMT)をモデル工場として活動を展開していく。

■ロシア工場のラインオフ式を実施

ロシアのトヨタ販売の主力車種である「カムリ」の生産をLimited Liability Company "TOYOTA MOTOR MANUFACTURING RUSSIA" (TMMR)で開始した。TMMRはロシアで初めてのトヨタ車両生産拠点として設立され、当初の生産能力は年間5万台。

■カーナビゲーションと運動し安全運転を支援する「ナビ・ブレーキアシスト」を開発

■「クラウン」をフルモデルチェンジ



2008年

10月

11月

12月

1月

2月

3月

■限りなく実走行に近い試験環境を追求した世界最高レベルの「ドライビングシミュレーター」を開発

ドライバーの運転特性の解析および事故低減技術の開発とその効果の検証に有効な「ドライビングシミュレーター」を開発し、トヨタの東富士研究所に設置した。



■リチウムイオン電池搭載のプラグインハイブリッド車販売を発表（北米国際自動車ショー）

2008年北米国際自動車ショー（デトロイトモーターショー）において、リチウムイオン電池を搭載したプラグインハイブリッド車を2010年までに、米国をはじめとした地域でフリートユーザー向けに販売することを発表。搭載されるリチウムイオン電池は、トヨタと松下グループが共同出資しているパナソニックEVエナジー（株）での量産化を検討している。

■バイオエタノール混合率10%燃料対応車の国土交通大臣認定を取得

■超高効率パッケージカー「iQ」を出展（ジュネーブモーターショー）

2008年ジュネーブモーターショーにおいて、超高効率パッケージカー「iQ」を出展。クルマづくりの既存概念を覆す超高効率パッケージによって優れた燃費性能を追求するとともに、全長3m未満のコンパクトなボディながらゆとりを持った室内空間を確保した。

